



令和6年(2024年)3月14日 公表
 令和5年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

ソウハチ(日本海南西部系群)

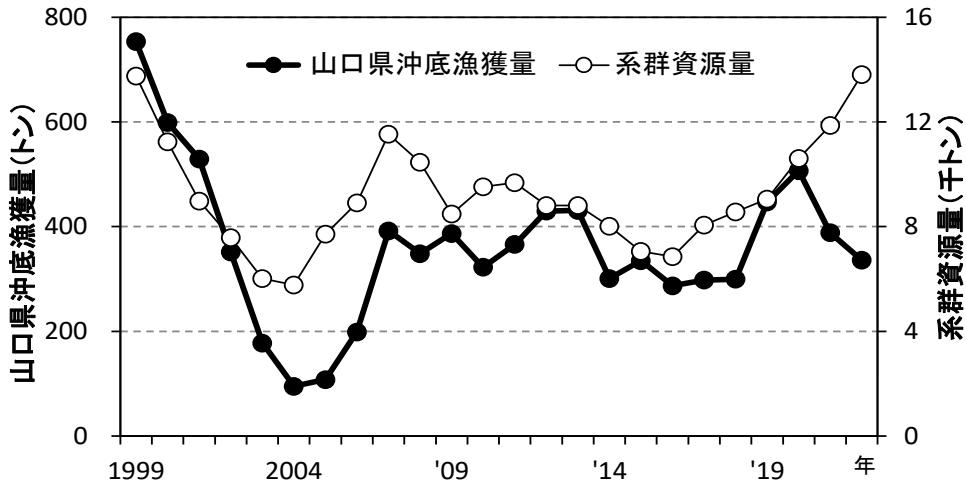


図 山口県沖合底びき網漁業ソウハチ漁獲量(下関漁港水揚量)及び日本海系群ソウハチ資源量((国研)水産研究・教育機構資源評価報告書)の推移

【漁業】ソウハチは主に沖合底びき網で漁獲されるほか、沿岸域では小型底びき網でも漁獲される。沖合底びき網による主な漁獲サイズは全長20cm以下の小型魚(2歳魚主体)である。

【漁獲量】山口県沖合底びき網漁業の漁獲量は、1999年には754トンであったが、2004年には最低の95トンまで減少した。その後増加に転じ2013年には431トンまで増加したが、2014年以降300トン前後で推移した。2018年以降再び増加し、2020年の漁獲量は507トンとなったが、2021年以降減少し、2022年には336トンであった。

【資源状態】資源量は1999年に過去最高の13,749トンから2004年には5,771トンまで減少したものの、2007年には11,529トンまで増加した。その後2016年まで減少を続け、2017年以降は再び増加に転じ、2022年は過去最高雄の13,812トンとなった。

2022年の親魚量(SB)は、最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(SB_{msy}:目標管理基準値)を上回った。また、2021年の漁獲圧(F)は、MSYを実現する漁獲圧(F_{msy})を下回った。親魚量の動向は増加と判断された。

2022年漁獲量(千トン)	MSY(千トン)	2022年親魚量(千トン)	目標管理基準値(千トン)	限界管理基準値(千トン)	禁漁水準(千トン)
2.1	2.8	6.2	4.1	1.6	0.2

*暫定値